

～想像力と度胸～

～想像的に常識を破る生きる挑戦者～

15回の授業、様々な講師をお迎えした講義は、生涯の宝のように思います。

大学生の時、たまたま履修した社会思想史を担当して頂いた、客員教授の田村秀夫先生を思い出します。先生はユートピアの世界を1年かけて講義されました。話も面白かったのですが、1年間一度も椅子に座ったことがなく、立って講義をされました。非常に感銘を受けて、1年間前列前で講義をうけました。

最後の授業の時、終わってから初めて先生に声をかけて、非常に感銘したと話をしました。その後、中央線で八王子から新宿までご一緒させていただき、「どうして椅子に座らないのか？それは、学生の集中力を引き寄せためだ」とお話がありました。講義の内容も素晴らしかったとお話をさせていただきました。その思い出は40年以上前になりますが今も鮮明に覚えています。

ゆき先生の講義もこの田村先生と似ていると思います。講義の内容も素晴らしいですが、何か一生の記憶に残るものがあります。様々なゲストも素晴らしいですが、タイトルにあるように人のため、人の幸福とは何だろう？との問いかけに、既存の常識を壊す挑戦者のように思います。

想像力は、当たり前を当たり前ではなく、一度立ち留まって考える事が大事だと私には聞こえます。健常者からすれば目が見えるのは当たり前、歩けるのもあたりまえ、聞こえのも当たり前。ですが、実際は目の不自由な方からすれば当たり前ではありません。聴覚の不自由な方からすれば当たり前ではないのです。

“えにしを結ぶ会”も、常識的に思っていた方が、一端振り返る事であたらしい世界を見出した方々のように思えました。

今回の15回の授業も終わりましたが、履修に限らずこれからも縁を大事に週1回の講義を楽しみにしていきたいと思います。

加藤 正幸

